

調査の目的と概要

大嶋 和則(高松市立中央図書館)

1 小豆島の石丁場

元和6年(1620)から開始された徳川期大坂城築城に、諸大名は石垣普請用の石を確保するため各地に石丁場を求めた。その一つが小豆島で、諸大名は島内各地に石丁場を拓いた。

佐賀藩鍋島氏・・・豊島	熊本藩加藤氏・・・小瀬・千軒	小倉藩細川氏・・・小海
竹田藩中川氏・・・小海	松江藩堀尾氏・・・大部	津藩藤堂氏・・・福田
福岡藩黒田氏・・・岩谷	柳川藩田中氏・・・石場	

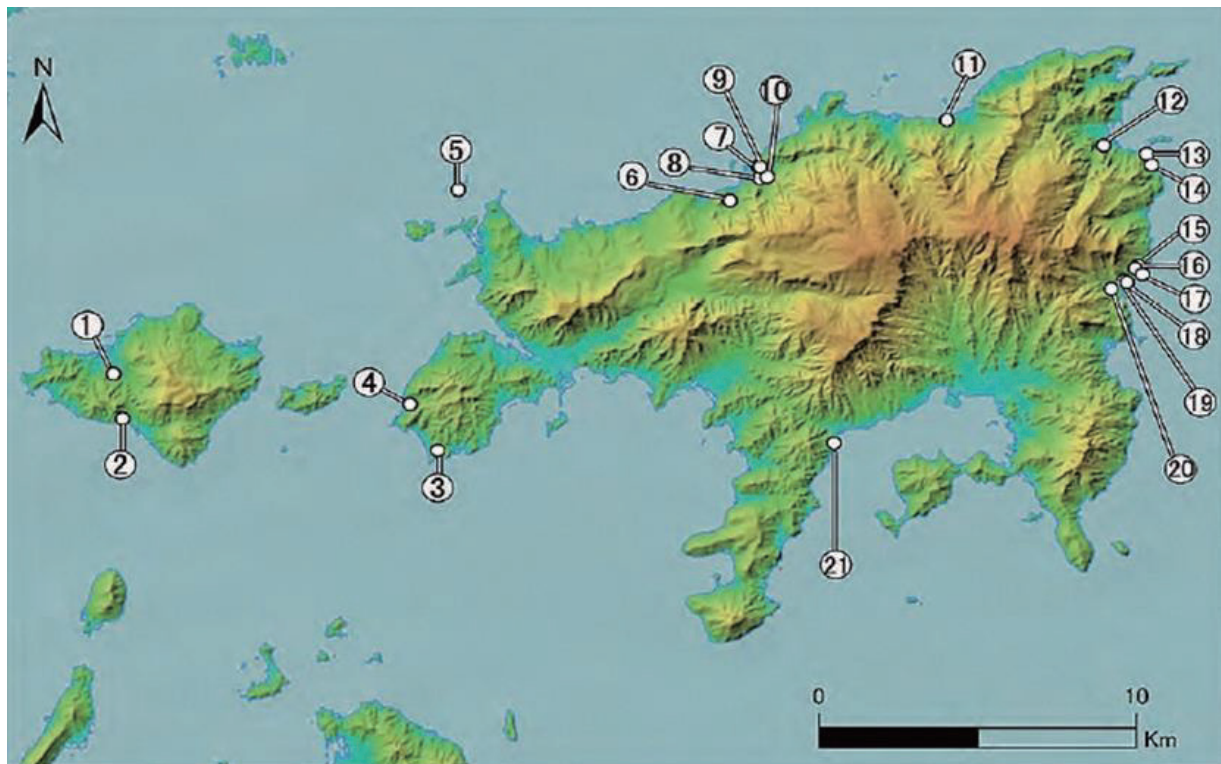


図1 小豆島の主要な石丁場位置図

- | | | | |
|--------------|----------------|---------------|---------------|
| ①家浦(鍋島) | ②甲生(鍋島) | ③千軒(加藤) 県指定 | ④小瀬原(加藤) 県指定0 |
| ⑤千振(黒田) | ⑥女風呂(中川) | ⑦とび越(細川) 県指定 | ⑧宮ノ上(細川) 町指定 |
| ⑨北山(細川) 町指定 | ⑩とびがらす(細川) 町指定 | ⑪大部(堀尾) 町指定 | |
| ⑫福田(藤堂) 町指定 | ⑬とちめんじ(藤堂) | ⑭鯛網代(藤堂) | ⑮八人石(黒田) 国指定 |
| ⑯豆腐石(黒田) 国指定 | ⑰亀崎(黒田) 国指定 | ⑱天狗岩磯(黒田) 国指定 | |
| ⑲天狗岩(黒田) 国指定 | ⑳南谷(黒田) 国指定 | ㉑石場(田中) 町指定 | |

2 石丁場の調査研究

昭和45年 岩ヶ谷丁場 県史跡指定

昭和47年 大坂城石垣石丁場跡(小豆島石丁場跡) 国史跡指定

昭和49年 台風8号で島の東部海岸の橋、岩谷などで土石流、丁場も石材も被害

昭和54年 大坂城石垣石切丁場跡復興事業に伴う分布調査(内海町教育委員会 1979)

以後、調査研究は岩谷石丁場が主であり、他の石丁場の調査はほとんど見られない。

平成 26 ～30 年度 徳島文理大学橋詰茂氏による石丁場と水運に関する研究（橋詰茂 2019）



図2 八人石丁場調査風景



図3 千振島沖のナカノソワイの調査風景

3 日本遺産認定

(1) 日本遺産（Japan Heritage）とは

地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定するもの。ストーリーを語る上で欠かせない魅力あふれる有形や無形の文化財群を地域が主体的に整備活用を行うことで、国内外に発信していくことにより地域の活性化を図ることを目的とする。現在、104 件が認定されており、香川県関係では他に、「四国遍路」～回遊型巡礼路と独自の巡礼文化～などがある。

認定されると、多言語ホームページやパンフレットの作製、ボランティア解説員の育成、国内外でのPR活動に対して助成が得られる。一方、各地域での取り組み状況に差が出てきており、取り組みを検証し、改善を図る必要性が生じている。補助事業での成果や、事業終了後も継続的なフォローが実施されることが必須で、認定解除もありうる。

(2) 小豆島の石丁場等の日本遺産認定

ア 名称

「知ってる!? 悠久の時間が流れる石の島

～海を越え、日本の礎を築いた せとうち備讃諸島～」

令和元年5月20日認定（岡山県笠岡市、香川県丸亀市・土庄町・小豆島町）

イ ストーリー

瀬戸内備讃諸島の花崗岩と石切り技術は長きにわたり日本の建築文化を支えてきた。日本の近代化を象徴する日本銀行本店本館などの西洋建築、また古くは近世城郭の代表である大坂城の石垣など、日本のランドマークとなる建造物が、ここから切り出された石で築かれている。島々には、400年に渡って巨石を切り、加工し、海を通じて運び、石と共に生きてきた人たちの希有な産業文化が息づいている。世紀を越えて石を切り出した丁場は独特の壮観な景観を形成し、船を操り巨石を運んだ民は、富と迷路の様な集落を遺した。今なお、石にまつわる信仰や生活文化、芸能が継承されている。

ウ 構成要素

石丁場及びその関連遺構などの史跡

慶長小豆島絵図及び正保小豆島絵図など有形文化財（工芸品）

農村歌舞伎舞台や棧敷などの有形民俗文化財

醤油蔵と石道具の町並みや土庄本町地区などの文化的景観

神懸山（寒霞溪）などの名勝

石節や石切り寿司などの無形民俗文化財や無形文化財

国・県・町指定の
ほか未指定のも
のを含む多様な
文化財で構成



图4 重岩

4 調査の目的と概要

(1) 目的

既存石丁場の価値の再確認及び新たな石丁場の発見及びその価値づけ

(2) 組織

令和3年8月に小豆島石丁場調査委員会を組織（土庄・小豆島町関係者・遺跡調査関係者）

下部組織として小豆島石丁場調査団を組織

調査の補助員として島内関係者、徳島文理大学学生なども参加

(3) 主な調査箇所

ア 小瀬

笠井家文書に記載のある 9 箇所の石丁場のうち、従前から知られていた小瀬（小瀬原）のほか、橋詰 2019 において柳木谷、水が浦、東瀧、西瀧の位置は特定済である。残る 4 箇所の特定を目指す。

令和３年度の調査で「じゃ谷」がほぼ確定した。４年度以降、残る３箇所の特定を行うことで、加藤家石丁場の全容を解明したい。また、海岸部にも石材が散乱しており、石丁場と積出場所の関係性を明らかにできることを期待している。

土庄村組ニ而石場之所
御改帳之うつし
覺
一 柳木谷 同所奥
一 水か浦
一 東瀧
一 西瀧
一 小瀬
一 じや谷
一 大かげ
一 つぶ石
一 九だて

図5 土庄村石場改帳写（笠井家文書）



図6 橋詰 2019 の調査地点と現在の調査箇所（A・B・Cに向けた斜面谷部に石丁場を想定）

イ 福田

黒田・細川・加藤家の石丁場に比べ調査があまり行われておらず、実態が不明。令和3年度の調査において町指定史跡周辺で新たな矢穴石材を確認するなどしており、まずは矢穴石材等の位置の記録を行い、その分布範囲の調査を行う。

明日の体験調査で町指定史跡周辺の踏査を実施予定。



図7 大坂城築城残石（福田）

(4) 調査の積極的な公表

Webサイトをはじめ、多様な媒体において、調査の3Dデータや動画、刊行物などを積極的に公開している。

(5) 目標

- 文化財の確実な保存
- 埋蔵文化財包蔵地への登録
- 町・県・国指定や追加指定
- 新たな活用方法の検討

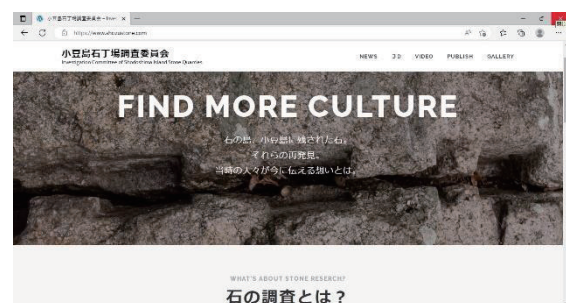


図8 小豆島石丁場調査委員会 Web サイト

【参考文献】

- 内海町教育委員会 1979『史跡大坂城石垣石切丁場跡保存管理計画報告書』
- 小豆島石丁場調査団 2022『令和3年度小豆島大坂城石垣石丁場調査概報』小豆島石丁場調査委員会
- 橋詰茂 2019『東瀬戸内海島嶼部における大坂城築城石丁場と石材輸送水運に関する研究』